

2-9 「センチネルアジア」事業の推進

「センチネルアジア」事業は、アジア太平洋域の災害管理に資するため地球観測衛星画像などの災害関連情報をインターネット上で共有する活動です。

APRSAF（アジア太平洋地域宇宙機関会議）加盟の宇宙機関、ADRC およびその加盟機関をはじめとするアジアの防災機関が活動の中心を為しています(図 2-7-1 参照)。

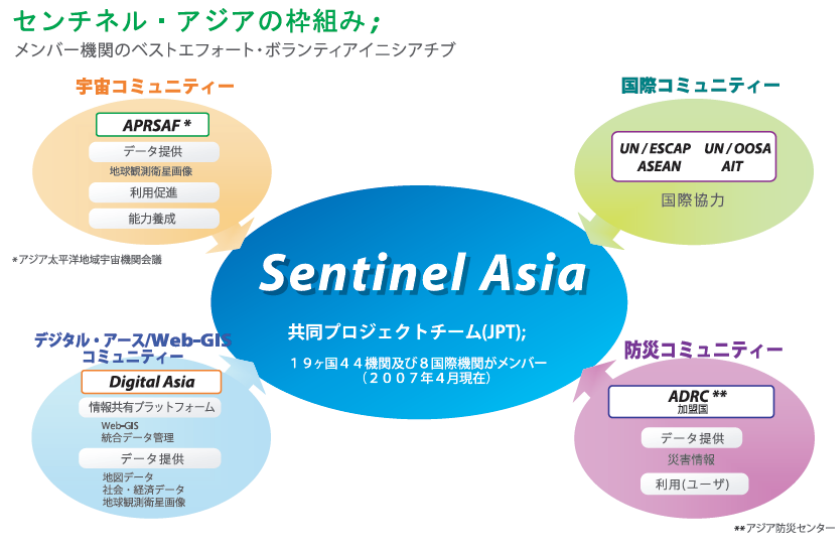


図 2-9-1 センチネルアジアの枠組み

センチネルアジアのサービスのうち、ADRC では地球観測衛星を用いて被災地の状況を緊急に観測し、被災国の宇宙機関・防災機関に迅速に配信するシステムの運用支援を主に推進しています。

2006年1月にJAXAが打ち上げた地球観測衛星「だいち」(ALOS)を用いたシステムは2006年10月から正式に運用が開始され、2007年11月より衛星画像の提供機関にインド宇宙研究機関(ISRO)も加入しました。

特に、災害発生時の緊急観測はADRCが窓口になっています。

緊急観測が要請されたら、ADRCは災害の規模や状況などから可否を判断し、観測機関(2008年3月現在ではJAXA及びISRO)に観測を依頼します。

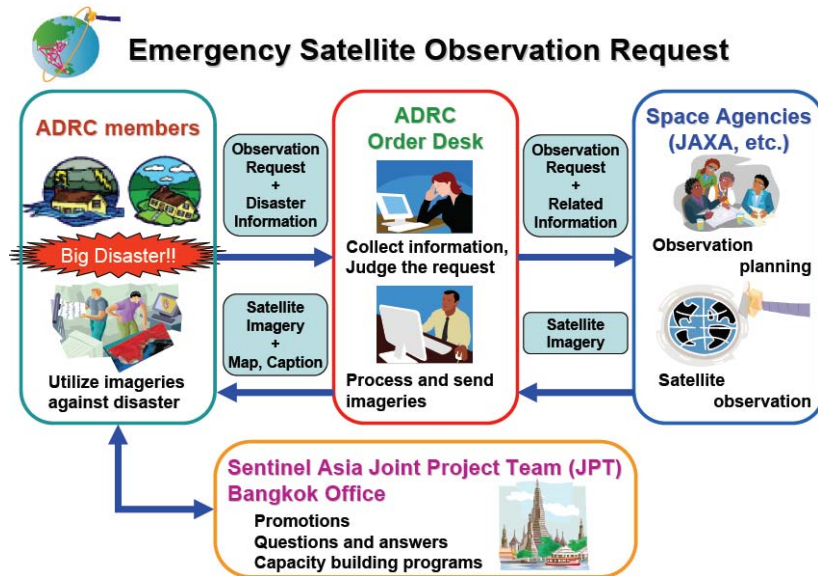


図 2-9-2 緊急観測要求の流れ

2007年の1年間にADRCで受け付けた緊急観測要求は次ページの表2-7に示す通りです。災害の大半が水害や地震に起因するものでした。

国別：

災害発生国	JAXA 受理		JAXA 見送り	ADRC 見送り
	緊急 観測	計画内 対応		
インドネシア	3	2		2
バングラデシュ	1(注1)	2		
ベトナム		2		
ソロモン諸島(注2)	1			
ネパール		1		
タジキスタン	1(注3)			
パキスタン		1		
インド	1(注1)			
タイ		1		1
モンゴル				1
フィリピン				1
合計	6	9	0	5

(注1) 同一の災害(サイクロン)に対し両国が緊急災害を要求

(注2) 要求元はオーストラリア

(注3) 緊急観測は AVNIR-2 のみ、PARSAR は計画内対応

災害別：

災害種別	JAXA 受理		JAXA 見送り	ADRC 見送り
	緊急 観測	計画内 対応		
水害(洪水、鉄砲水、斜面崩壊)	1	7		1
雪害(雪崩)		1		
熱帯低気圧(台風、サイクロン)	1			1
地震・津波	4			1
火山噴火		1		1
森林火災				1
合計	6	9	0	5

表 2-9 2007 年の緊急観測要求